

第2回葬儀企画講習会報告

近年の葬儀は従来どおりに施行していれば良いという状況ではなく、葬儀状況、施主の意向等に対応していかなければならなくなっています。このような考え方から昨年8月に第1回葬儀企画講習会を開催し、さる8月26日～27日に全農営農・技術センターで第2回目の講習会を開催しました。

第1日目は、まず全農メモリアルギフト事業所常田所長から情勢報告や課題提起があり、その中でイオングループの葬儀ビジネス参入についても手短な解説がなされました。

続いて**第1講義**は、(株)JA東京中央セレモニーセンター丹野社長が「葬儀と葬祭事業における『お客様を意識した企画』の考え方と実践」と題して行いました。「感性を研ぎ澄まそう！」が副題でした。JA役職員とのコミュニケーションを大事にすること、地域との結びつきを強めることなどがいかに大切なのか、それらのことが企画に結び付くのだということを、多くの映像を通して学ぶことができました。区内の土地区画整理事業の記念碑除幕式のビデオに、参加者の皆さんが「このようなことまでするのか」と思いつつも、企画力があるからこのようなことまでできる、このようなことをしながら企画力を付けていくのだと理解されたようでした。



(丹野社長)



(受講の皆さん)

第2講義は(株)ユービジョン宇佐美社長が「家族葬と無宗教葬への対応」を講義しました。「滞りなく行われた葬儀は遺族と参列者とのコミュニケーションが不足するがそれで良いのか」「葬儀は故人が人々に別れを告げる式という考えに立った葬儀はどうするべきか」「式場設定では思逸空間を大事にしたい」など、従来型葬儀にはない視点からのまさに「家族葬と無宗教葬への対応」を考えさせられる内容でした。



(宇佐美社長)



(岩瀬課長と後藤さん)

第2日目**第3講義**は「社葬(合同葬)実践事例と社葬の進め方」を、茨城共同サービス(株)祭典統括課岩瀬課長と後藤さんからお話をさせていただきました。社葬は多くのJA葬祭では施行事例が少なく、なかなか自信を持ってない分野です。それは葬儀企画、施行、渉外など、普通の葬儀にはない内容やレベルで行われるからです。いたるところでビジネスとしての気配りや正確さ等が求められ、かつ金銭的合理性が求められるからです。

岩瀬課長と後藤さんは、自らが取り組んだ大型葬を事例として講義をしました。施主から葬儀依頼を受けるときから葬儀が終了し整理をするまでについて、時系列的に図や画像を多く使いました様々な資料の様式を示し、大変わかりやすく説明をしていただきました。その内容、資料は受講者の皆さんがJAに戻ってそのまま使えるのではないかとと思われるほどのものであり、多くの皆さんが大変ありがたがっていました。

第2日目は**グループ討議**に十分な時間を設けました。

グループ討議は他人から話を聞く、自分で考える、他人へ話すということにより、環境理解力、思考力、情報発信力を鍛えることに目的を置いています。もちろん、その場で提起される問題に対してみんなで考えて一つの結論を得ることも目的です。次のような課題でどのように対応すべきか、2班に分かれて熱心に討議しました。

課題1

故人：速水 美智子（はやみ みちこ） 45歳

故人の遺志：住職を呼ばないで宗教にこだわらない葬儀で送ってほしい

喪主：夫 速水 誠（はやみ まこと）

職業：上場企業 営業統括本部長

家族構成：同居は夫・息子2人（中3・小5）

夫の実家に夫の両親（夫の父は現職の銀行役員）

宗派：浄土真宗本願寺派

喪主及び遺族の意向：若くして逝去したので、故人の遺志を尊重したい

課題2

故人：佐倉 肇（さくら はじめ） 72歳（大手建設会社 会長）

故人の遺志：葬儀はごく親しい人だけで地味に行ってほしい

喪主：長男 佐倉 修（さくら おさむ）

職業：大手建設会社 社長

家族構成：同居は妻・長男家族（長男・長男の妻・孫 高2）

宗派：真言宗豊山派

喪主及び遺族の意向：故人の遺志を尊重したい

この二つの葬儀施行を受けるとなったなら、遺族とどのようなことを話さなければならぬか、どのような提案をするべきか等、各班は様々に検討を行い発表を行いました。



（熱心に討議する皆さんです）

《受講生の声》

- ◎ JA 本店、本部との連携の重要性を感じた。金融、保険など JA 事業としてどうするか、葬儀後について考えさせられた。
- ◎ 家族葬・無宗教葬について漠然とした感覚で考えていたが、より現実性と危機感をもって考えることが出来ました。
- ◎ ビューイングスタイルの写真を見て気持ちの重要性が理解できた。
- ◎ かなり大きい社葬や葬儀、また地域別の実情などがわかり参考になりました。今後に生かしたいと思います。
- ◎ 今後増えるであろう、無宗教葬対策に大変参考になりました。また、グループ内の討議、いろいろな地域の話、面白かったです。
- ◎ お互いに意見を出し合って話し合うことは、意見の分だけ自分の知識になるので大切なことだと思います。

報告が随分と遅くなりましたが、受講者の皆さんお疲れ様でした。講習会で得たことを現場で実践に移していただければ、事務局としてこの上ない喜びです。

平成 21 年 10 月 8 日 農協流通研究所 店舗生活部